



河小だより



四日市市立河原田小学校
学校通信 第40号
令和5年 3月 6日(月)
文責 校長 鳥居 純樹

3月に入り、春の暖かさが心地よく感じる季節となりました。学校では6年生の卒業に向けての準備、各学年のまとめの時期となっています。学年が進むことはうれしいことですが、6年生との別れが近づいていて寂しく感じる季節となっています。

登校班も5年生が中心となつての班編成に変わりました。令和5年度が確実に近づいています。6年生には、これまで通り在校生を見守り、全校のモデルとしての姿を、最後まで見せてもらいたいと思います。

全校児童集会

2月27日(月)今年度初めて全校児童が体育館に集まり児童集会を行いました。三泗小中書写展、三泗小中美術展、三重県小中学校書写展の表彰を行いました。代表して6年生に表彰状を渡し、作品を作る(書く)ときががんばったことを全校のみんなに伝えてもらいました。今年度は、表彰や認証の際には、話をする機会を設け、子どもたちから全校に向けて発信することを心がけています。自分が頑張ったことを知らせること、そしてみんなの前で話すことにより自信をつけてもらえればと考えています。

今年度本校に着任した5・6年生の音楽、算数少人数、1年生の音楽を担当していた丸山加那子が第一子出産のため、学校を離れることとなり、子どもたちにあいさつをしました。大変寂しいことですが、丸山先生が元気に赤ちゃんを産み、また河原田小学校に戻ってきてくれることを待ちたいと思います。

6年生からは、送る会の在校生へのお礼として、三泗音楽会で合唱した「いのちの歌」の合唱を聞かせてもらいました。在校生への感謝の気持ちが伝わる合唱となりました。

最後に全校で校歌を歌いました。久しぶりなので歌詞を忘れていた人もいましたが、みんなの気持ちが一つになった全校集会でした。それは6年生の並ぶ姿、5年生の聞く姿勢など高学年の姿が在校生のお手本となったことが大きいと感じました。

これからも高学年として学校全体を引っ張っていってくれることを期待しています。

校長から「さいごまで」をキーワードに4つのことを話しました。

- ①6年生にとって卒業式は最後の授業となります。気持ちよく過ごせるためにそうじを最後までしっかりすることで、6年生に向けての感謝の気持ちを伝えていきましょう。
- ②今の学年の学習をしっかりと取り組むために1時間1時間の授業を大切に最後まで学習に取り組みましょう。
- ③今の学級が楽しかったといえるように最後までいいクラスだったといえるように自分のできることをしましょう。
- ④最後まで周りの人に感謝と思いやりの気持ちを忘れず過ごしましょう。



残念な出来事

2 月末の週末用務員さんが運動場のゴミを拾っているとお菓子の袋などがたくさん落ちていて、ゴミ袋いっぱいになるくらいの量となりました。2月27日（月）の朝、運動場を回っていると週末拾ってもらったにもかかわらずMサイズのゴミ袋半分くらいの量のお菓子の袋、ティッシュ、マスクなどのゴミが植え込み付近に落ちていました。子どもたちが落としたゴミとは限りませんが、自分たちの学校が平気で汚されていることに怒りをもってもらいたいと思い、児童集会で話をしました。運動場だけでなく、階段や廊下にゴミが残っていることもあります。

三学期の清掃目標は「時間を見て掃除を始められるようにしよう」と掲示しています。掃除時間で始まり、終わることも大切ですが、それ以上に掃除時間できれいに掃除することが大切です。一人一人が「学校をきれいにしよう」という意識をもち、それぞれの役割を果たせるようにしてほしいと思います。みんなの学校をみんなできれいにすることで、河原田小学校を誇れる学校となることを期待しています。



志の授業

コミュニティスクール運営協議会委員長の佐藤正倫先生にお越しいただき、6年生での志授業を行いました。中学校進学を前に夢や目標についてキャリア教育の一環として子どもたちも具体的な目標や中学校での学習に向けて意欲を高める時間となりました。

佐藤先生の生い立ちを語っていただき、家が和菓子屋だったことから和菓子作りで使っていた砂糖菓子の鯛型を見せていただき子どもたちは興味深く見ていました。

夢をかなえた人の動画では、サッカーW杯で大活躍した堂安律選手が英語でインタビューを受けている姿を見せていただき、世界に出ていくことがあれば英語でのコミュニケーションをとらないといけないこと、また全国女子駅伝でこれまでの区間新記録を更新したドルーリー選手は、自分で考えて練習メニューを組み立てていること等子どもたちの夢をかなえるためのヒントがたくさん詰まった授業でした。

夢をかなえるためには一人ではできないこと、そのために「ありがとう」という感謝の気持ちを持つことということが心に残りました。また、夢を実現するためには家の人にも話をして協力してもらうことも大切と話されていました。子どもたちの可能性は無限なので、自分のしたいことや興味のあることに挑戦させながらも、より良い道を選べるようにご支援ください。



【毎日の積み重ねから】

4月に着任以来、通用門で子どもたちを迎え、挨拶をするのが校長として毎日の日課となりました。初め頃は、挨拶をしても返ってこないことが多かったのですが、最近は元気に挨拶してくれる人や私よりも先に遠くから大きな声で「おはようございます」と言ってくれる人が増えました。私にとって朝の挨拶は、ルーティーンとなっていますが、子どもたちにとっても当たり前前を当たり前前に行うことができることは素晴らしいことです。毎日の積み重ねでこれからも当たり前前ができる河原田小学校にしていきたいですね。